

ダイバーシティ研究センター GUIDE

多様性を受け入れ、人々の幸福と組織の革新につなげる

ダイバーシティ

性別、民族、年齢といった表層的な差異だけでなく、価値観、知識、経験といった深層レベルでの差異が存在し、メンバーがたがいに異なっている状態。

ダイバーシティ研究センターの役割

広島大学のすべての学生・研究者が、等しく学習・研究できる環境を整備し、ダイバーシティやインクルージョンに関する研究成果を社会に生かすための取り組みを進めています。

- 1 ダイバーシティ、インクルージョンに関する学際的研究の実施
- 2 ダイバーシティ、インクルージョンに関する知識とスキルを学生に教育
- 3 学内外におけるダイバーシティ、インクルージョンの推進と課題解決
- 4 ダイバーシティを生かして創造的研究を生み出す実践の場を提供

インクルージョン

自分とは異なる特有の経験やスキル、身体的・精神的特徴、価値観や考え方を認め合い、ともに生活していくこと。

具体的な活動内容

- 業種や規模が異なる、様々な企業と連携して女性活躍を調査
- アクセシビリティセンター、ハラスメント相談室、保健管理センターと連携して、性の多様性を尊重するためのガイドラインを大学で制定
- LGBTにまつわる啓発イベントを実施し、その効果を測定
- 地域や学校での多文化共生を進めるための実践的な研究を学際チームで実施
- 産業廃棄物処理など、利害の対立が生じる場面を体験するゲームを開発
- ダイバーシティを学ぶための特定プログラムを運営

誰もがより良い教育成果を得られるための環境を整える



Diversity

Accessibility

= Potential

広がる学びの可能性

アクセシビリティセンター GUIDE

「利用しやすさ」「わかりやすさ」をサポート

アクセシビリティ

年齢や障がいの有無等の違いに関係なく、誰でも必要とする情報や行いたいことに、簡単にたどり着けたり、利用できたりすること。

学生スタッフやテクノロジーの力で全員に質の高い同一の教育を実現

アクセシビリティセンター
山本 幹雄 准教授 Mikio Yamamoto

アクセシビリティセンター設立のきっかけは、2000年に全盲の学生と重度難聴の学生が同時に入学したことでした。その後、障がいのある学生が学びやすい修学環境を積極的に整えようと、支援が必要な学生をサポートする人材を育てる取り組みを開始しました。

センターの活動における基本的な考え方は、「障がいの有無に関わらず、すべての学生に質の高い同一の教育を保障すること」の実現です。学生スタッフによる点字サポート※1や筆記通訳※2などを行っていますが、多様な学生のアクセシビリティを担保するためには、人による支援がまだまだ必要です。人工知能等を積極的に導入し、人による支援をテクノロジーでカバーするための取り組みを進めています。今後は、学習サポート等にも支援の幅を広げたいと考えています。 ※1 教材の文字情報を点字データにする支援 ※2 音声の内容を文字に通訳する支援

アクセシビリティセンターの役割

- 1 修学支援リソース(支援機器、ノウハウ、支援者等)の提供
- 2 アクセシビリティを担保するための支援方法の開発と提案
- 3 アクセシビリティリーダー育成プログラムの企画と実施



多様な人とともに歩みながら新しい社会の創造につなげる

ダイバーシティ研究センター長
大池 真知子 教授 Machiko Oike

ダイバーシティ研究センターは、ダイバーシティを学際的に研究する拠点として2016年に発足し、企業や自治体と連携して研究を進めています。研究だけでなく、ダイバーシティについて体系的に学ぶ教育プログラムも2020年に始めます。また、学内外で啓発活動もしています。これらの活動は一体となって行われます。たとえば2019年に大学でLGBT等の学生をサポートするためのガイドラインを他のセンターと共同で制定し、各種啓発イベントを実施して、その効果を調査しています。

ダイバーシティはすべての人にとって大事です。たとえばLGBT等の学生がいた場合、彼らが学びやすい環境を整えることは大学の責務です。しかし、それだけでは不十分で、私たち1人ひとりの性が異なっているという前提を皆が共有する必要があります。それによって、皆が安心して自分でいられ、力を発揮することが可能になります。そういう社会を作るため、私たちセンターは力を尽くしたいと考えています。

PICK UP

池の上学生宿舎
留学生との生活でダイバーシティを体験



学生の修学に適し、良識ある市民としての生活が体験できる住居の提供を目的に設置しました。プライバシーに配慮し全室個室ですが、生活文化や慣習の異なる外国人留学生と日本人学生が同じ建物で共同生活を送り、相互理解を深める国際交流の場としての性格を持っています。2018年5月現在、日本人学生350人、外国人留学生169人(中国、台湾、ポーランドなど、およそ17ヵ国・地域)が入居しています。入居期間は2年間。東広島キャンパスへは、徒歩で約10〜15分、自転車約5〜10分なので、通学にも便利です。

広島大学では、どのような人であっても、学生自身が望む教育を受けられるように、多様性を重んじた取り組みを進めています。その一端を担う「ダイバーシティ研究センター」と「アクセシビリティセンター」の活動を紹介します。

PICK UP

アクセシビリティリーダー育成プログラム
人に優しい社会をリードする人材を育てる

個人や社会の多様性を深く理解し、様々な場面でアクセシビリティを推進し可能性を開拓できる人材の育成をめざし、「アクセシビリティリーダー(AL)育成プログラム」を策定しました。学生に向けて、「アクセシビリティ教育」「資格の認定」「学外研修会やインターンシップの実施」などを用意しています。さらに産学官連携で「アクセシビリティリーダー育成協議会(ALPC)」を設立し、他大学や社会人・大学職員向けにもAL育成プログラムを実施。広島大学内にとどまらず社会の中で、様々な不自由を感じている人々を支える人材を育てています。

STEP1 アクセシビリティ教育課程
教育課程①オンライン講座 教育課程②実習・講義

STEP2 AL資格認定
2級AL認定試験【受験資格:教育課程①を修了】
1級AL認定試験【受験資格:教育課程①②を修了】
◇認定試験合格者は広島大学の推薦を経て、AL育成協議会が資格を認定

STEP3 ALインターンシップ
アクセシビリティセンター、地域の教育・福祉機関などでインターンシップ活動

STEP4 ALキャンプ
1級ALが対象となる「社会の最新ニーズ・取り組みを学び、人に優しい未来を考える」課題解決型の学外研修合宿

STAFF VOICE



1級アクセシビリティリーダー
本多 千紗 さん
大学院総合科学研究科
博士課程前期1年
[愛知県立西春高等学校卒業]

自分の成長にもつながる支援活動

学生スタッフのアクセシビリティ・インターンとして、視力や聴覚に障がいがある学生のサポートを担当しています。一緒に授業に出てノートを取ったり、授業の内容をパソコンでリアルタイムに文字起こしするのが主な作業です。自分と違う学部を学生をサポートすることが多く、専門用語などが難しく大変ですが、活動を続けているうちに自分にできることが増え、他人のためになっていると同時に、自分の成長にもつながっていると実感しています。